

沖縄県がん登録室：
うるま市新庁舎へ移転しました。

沖縄県は、日本の南西部に位置し、人口約143万人(2015年12月1日現在推計)、1年を通じて温暖な亜熱帯海洋性気候となっています。

<医療体制>

県内には2017年4月現在、都道府県がん診療連携拠点病院が1施設(琉球大学医学部附属病院)、地域がん診療連携拠点病院が2施設(県立中部病院、那覇市立病院)、地域がん診療病院(県立宮古病院、県立八重山病院、北部地区医師会病院)として3施設が整備されています。

<沖縄県がん登録の歴史>

沖縄県では、1985年に初めて「がん特別事業」が実施され、1988年に「沖縄県悪性新生物登録事業」として沖縄県衛生環境研究所(南城市)にて開始されました。

以降、地域がん登録標準データベースシステム導入(2009年)、「沖縄県がん対策推進条例」(2012年)を始めとする条例、2016年「全国がん登録」制度施行を経て、現在に至ります。

<がん登録室紹介>

がん登録室の体制は、作業責任者1名、作業担当者2名(常勤)、主に入力作業を行うがん登録業務補助員・事務補助員と、診療情報管理士・医師(それぞれ非常勤1名ずつ)となっています。

2017年3月における旧庁舎(南城市)から新庁舎(うるま市)への当研究所移転に伴い、より全国がん登録の「安全管理措置マニュアル」の形に添った、がん登録室を新設しました。地域がんから全国がん登録システムへの移行期での移転は、大変な作業ではありましたが、従来のがん登録室の改善点を見直す良い機会となりました。

<現状と課題>

2012年症例において届出件数は6,693件、遡り調査は実施しておらず、MCIJ精度基準では、B基準該当地域(DCN=DGO=14.3%、I/M比2.3)となっています。登録(数)精度は、年々向上しているとはいえ、まだまだ「伸び代はあるはず」と考えています。

今後は、各医療機関、関係機関に対して一層の協力体制をお願いするとともに行政担当者と連携しながら登録作業を進めていきたいと思えます。

また全国がん登録室関係者様にも、掲示板でのご助言を宜しく願います。



沖縄県がん登録室のスタッフ